

冬の星空

～ 星座編 ～

冬は明るい星をたくさん見ることができます。その明るい星が目印となります。オリオン座を使って明るい星を目印にほかの星座を探してみましょう。

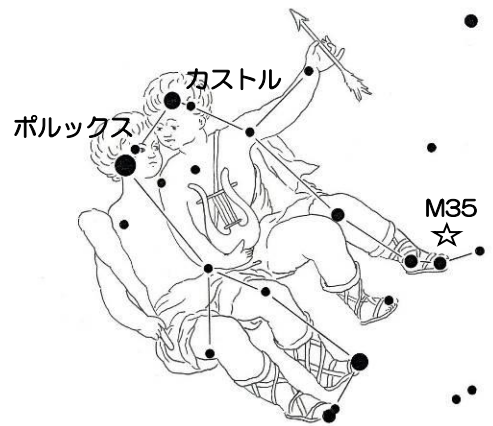
星座を探してみよう



まずは、冬を代表する星座「**オリオン座**」を探してみましょう。目印は4つの星に囲まれた三ツ星です。オリオン座の三ツ星を結んで上にのぼすと「**おうし座**」の「**アルデバラン**」を見つけることができます。おうし座は大きなVの字が目印です。おうし座の右の角の星から五角形に結ぶと「**ぎょしゃ座**」です。三ツ星を下にのぼすと「**おおいぬ座**」の「**シリウス**」を見つけることができます。オリオン座の「**リゲル**」と「**ベテルギウス**」を結んで伸ばすと、「**ふたご座**」の「**カストル**」を見つけることができます。カストルの隣にある明るい星は「**ポルックス**」です。

ふたご座

ふたご座は2つの明るい星「**カストル**」と「**ポルックス**」が目じるしになります。カストルは連星です。望遠鏡では2つの星を見ることが出来ます。ただ、空気のゆらぎがひどい時はだるまさんのようにつながって見えます。その2つの星以外にも



カストル

そばに別の星があり、それぞれがまた別の星を従えているという「**6重星**」です。また、カストルの足元には M35 という散開星団があります。双眼鏡でも見やすい星団ですので、持っている人は向けてみてください。

おおいぬ座

口元で明るく光っているのが「**シリウス**」です。明るさが-1.5 等で、全天で一番明るい星です。シリウスには「**焼きこがすもの**」という意味があり、ギリシャ語の「**セイリオス**」からきたものだといわれています。古代エジプトでは、洪水を知らせる星として知られていました。雨季となる夏の頃の日の出前に、シリウスが東の地平線から見え始めるからです。



このシリウスのすぐそばに伴星と呼ばれる星があります。その星はシリウスBと呼ばれています。1862年にアルバン・クラークによって偶然発見されました。シリウスBは空の条件が良ければ、103cm望遠鏡で見えるかもしれません。



シリウス